

日本医療安全学会事務局

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1 丁目 20-1 浜松医科大学総合人間科学基礎研究棟 306 号室

<http://www.jpscs.org/> Email: office@jpscs.org TEL:053-433-3812 FAX:053-435-2236

目次

- 01 第9回総会大会長報告
- 05 用語編纂を通じて学ぶ「安全」の考え方
- 06 2023年「世界患者安全の日」(9月17日) 記念の参加型 Zoom シンポジウムのご案内
- 07 編集後記

第9回総会大会長報告

日本医科大学 脳神経外科
大学院教授 森田明夫

2023年3月11日・12日に第9回日本医療安全学会学術総会を東京理科大学葛飾キャンパスで開催させていただきました。現地参加で開催させていただき、430名の参加を得て、盛況な学会として終了することができました。

今回はテーマを「Zero Avoidable Harm を目指して」とし、146演題をいただき、3つの総会長講演、2つの特別シンポジウム、18のシンポジウム、6つの招聘講演、7つの一般口演、5つのランチョンセミナー、1つのランチョンシンポジウムを開催させていただきました。1日目には特別シンポジウムでは小林史明衆議院議員(副幹事長 元デジタル担当副大臣)とMedlayの豊田剛一郎先生にデジタル化と医療安全について。また京都大学黒田智宏教授および千葉大学小林英良先生にAIと医療安全についてお話しいただきました。深いDiscussionができたと思います。また私の恩師である落合慈之NTT関東病院名誉院長にはNTT関東病院での先生が院長として矜持としてきたことを含め、Joint commission international 認証へのとりくみ、また現在取り組まれているバーコードを用いた物品トレーシングのことを詳しくお話しいただきました。2日目には私がとても楽しみにしていた畑村洋太郎先生から「医療のための失敗学」というタイトルで先生の失敗をどう考えるかなどについて詳しくお話しただけました。また早稲田大学棟近雅彦教授には、病院のQMSの講演をいただきました。その他にも沢山の素晴らしいご講演を賜りました。医療安全を新しい側面の切り口から見れる学会となったと思います。今回の学会では、副大会長の任

をお務めいただいた東京理科大学薬学部青木伸先生のご協力にて東京理科大学にも共催となっただき非常に立派な会場をご貸与いただきました。また協賛企業の方にはランチョンセミナーの開催にもご協力いただき、本学会の課題でありました昼食問題も解決できたかと思えます。学会の運営にあたっては Memento の皆さん、理科大学や浜松の学生、日本医大のスタッフに大変お世話になりました。このような学会が開催できましたのも、本学会の会員の皆様及び学会事務局の支援がありましたからでございます。ここに深く感謝いたします。



畑村洋太郎先生と

小林議員・豊田 CEO と



学会スタッフ・学生スタッフさんたちと

第9回日本医療安全学会学術総会が目指したもの

山梨大学医学部附属病院
医療の質・安全管理部
特任教授 荒神 裕之

World Patient Safety Day（世界患者安全の日）のテーマカラーのオレンジ色に彩られた大きな0（ゼロ）のポスター。本学術総会のポスターは、医療安全に携わる多くの関係者から「印象深かった」と高い評価をいただきました。森田代表総会長のアイディアで作成された本学術総会のポスターは、WHO Global Patient Safety Action Plan 2021-2030の7つの柱のうちの1番目に掲げられている目標「Zero Avoidable Harm」を体現しており、本大会のテーマとして掲げられました。

総会の2日間を通じて、研究領域で、あるいは現場の実践の中で、「Zero Avoidable Harm」を目指してきた様々な成果と課題が参加者の間で共有されました。中でも、森田代表総会長の大会長講演では、脳外科医として取り組んでこられた臨床実践における安全と質の向上の真摯な取り組みが示され、Zero Avoidable Harmを目指す医師としてのあり方を教えていただきました。また、和田共同総会長の大会長講演では、法社会学者として取り組んでこられた医療事故当事者へのケアの場と法的論点として重要な無過失保障についての講演があり、有害事象をZeroにできない現実の中で、被害を最小限化するための方向性が示されました。

私自身は、共同総会長として、企業のライフサイクルと称される「誕生」「成長」「成熟」「再生・衰退」のサイクルを敷衍して医療安全のライフサイクルを論じ、医療安全元年から約20年を迎えた現在の医療安全の立ち位置と今後の展望から、Zero Avoidable Harmの目指すべき方向性をお話させていただきました。

本学学長だった島田眞路先生をはじめ著名な先生方を招聘した特別公演やシンポジウム、一般口演やポスター発表、企業協賛を頂いたランチョンセミナーや製品展示等を通じて、参加頂いた皆様がZero Avoidable Harmの実現に向けた取り組みの手ごたえを感じていただけたのではないかと期待しています。医療の安全と質の向上は終わりのない旅ですが、現地参加が実現した今回の学術総会で、人と人との交流を通じて得られたパワーを胸に、日々襲い来る避けがたい困難を打破して前に進んでいきたいと考えています。

こうした学術総会の開催には、多くの方々のご協力なしには成しえません。共催して下さった東京理科大学と青木伸先生、日本医科大学脳外科医局をはじめ関係の皆様、大会運営を支えて下さった学生さんや協賛企業の皆様と、大会運営を担って下さった株式会社 Memento の皆様ほか、ご協力を頂いた全ての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上

第9回日本医療安全学会学術総会関係者の皆様への感謝

早稲田大学法務研究科
和田仁孝

2023年3月11日～12日にわたり、第9回日本医療安全学会学術総会を共同総会長として開催に関わらせていただきました。新型コロナウイルス感染症の影響も弱まり、対面開催が可能となって、多くの皆様にご参加いただき、充実した大会になったかと安堵しております。

無事、盛会のうちに開催できたことは、大会長である森田明夫先生のリーダーシップのもと、共同総会長の荒神裕之先生、東京理科大学の会場提供はじめお世話になった青木伸先生ほか副大会長の先生方、理事・評議員の先生方、さらには積極的にご参加いただいた多くの演者、会員の皆さまのおかげかと思えます。学術大会の運営は、オーケストラのようなもので、参加者すべてが一定のパーツを担い、その調和の達成が必要であると思えます。今回、それらすべてを見渡して、適宜、有益な助言をいただいた大磯義一郎理事長にも感謝したいと思います。第10回の日本医療安全学会学術総会も、素晴らしいアンサンブルのうちに準備されていくものと思い、一会員として楽しみにしていきたいと思えます。ありがとうございました。

用語編纂を通じて学ぶ「安全」の考え方

日本医療安全学会/医療の質・安全学会合同 用語編纂委員会 委員長 松村由美
(京都大学医学部附属病院 医療安全管理部 教授)

日本で医療安全という用語が用いられ始めたのが2000年頃ですので、それから約20年が経過しました。その間、日本と世界での医療安全の考え方もそれぞれの国で変化を遂げてきました。物の名称と異なり、概念を伝えるということは難しいことです。メンタルモデルを共有するためにも、言葉を深く知ることが大切です。

本委員会は、日本医療安全学会と医療の質・安全学会と合同で設置したものです。医療安全に関する重要な用語を整理することを目的として、8名の委員が13回の委員会での議論ならびに電子メールを介しての討議を経て、57語からなる用語集を作成しました。なお、国際標準と異なる意味で用語が残ることもあり、その場合には、国際標準と異なることが分かるように記述するように努め、違いがあるということも認識できるとよいと思いました。

2023年1月から1か月間実施したパブリックコメントでは、様々なご意見をいただきました。改めて、各用語を統一することの難しさも感じましたし、複数の定義があって、文脈によって異なる意味で使われている現状を変えることの難しさも感じました。

用語編纂を通じて、かつて、日本に新しい概念が輸入された時代のことを思い起こしました。明治時代には、それまで鎖国していた日本が、国外に目を向け、多くの新たな概念が輸入されました。例えば、statisticという用語や概念の訳語として現在は、「統計」が定着していますが、当初は、「表記」や「形勢」等の訳語も当てられたようです。訳語を作り、概念を浸透させてきた先人の努力を思うと感慨深いものがあります。

私自身は、この用語集を作りながら、以前に観た「舟を編む」という映画を思い出しました。辞書の編纂という地道な作業にスポットライトがあたり、そこで言葉をどのように人に伝えていくかということに奮闘した真面目な主人公（馬締：まじめさん）と彼を取り巻く心温かい人々の交流のものがたりです。

本編集委員会でも、私は、各委員の様々な考えに触れながら、各委員のものごとへの取り組み方等を学ぶことができました。私たちは、まだ、ようやく言葉の海に漕ぎ出したところです。これから、少しずつ語彙を増やししながら、医療安全/患者安全の考え方を学び、広めていきたいと思っています。用語編纂委員会の第2版もどうぞご期待ください。一緒に舟に乗る方も募集しています。どうぞご参加ください。

2023年「世界患者安全の日」(9月17日) 記念の 参加型 Zoom シンポジウムのご案内

世界保健機関 World Health Organization (WHO) は、2019年5月の総会で、加盟国は、患者安全が保健上の重要優先事項であると位置づけ、医療現場での患者被害を減らすために協調して行動することを決議しました。この行動の一環として、患者の安全を評価、検証し、改善するために必要な技術支援を加盟国に提供することを目的として9月17日に「世界患者安全の日」を設け、毎年1つのテーマを決め、活動を展開しています。

2023年のテーマは、“患者安全への患者参加 Engaging patients for patient safety”です。本会は、9月18日に開催される参加型 Zoom シンポジウムを共催いたします。ご参加いただくには、当日までの事前登録が必要です。詳細については、以下のフライヤーをご参照下さい。



【世界患者安全の日企画】患者安全への患者参加

医療者と患者さんが 一緒に話し合っ て治療方針を決めること

シェアード・ディシジョン・メーカーキング (SDM) を理解して実践しよう






2023年
9月18日 (祝)
16時～17時

開催方式 : Zoomミーティング
※メディカルノートへの事前登録が必要です (締切: 9月17日)

参加費 : 無料
対象者 : 医療者・市民

プログラム

講師① **中山 健夫** 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 健康情報学分野
京都大学医学部附属病院 倫理支援部
「IC (Informed Consent) とSDM (Shared Decision Making)」

講師② **片木 美穂** 卵巣がん体験者の会スマイリー代表
「患者はどうやって治療方針を決定しているか?」
～卵巣がん治療の意思決定に関する患者アンケート結果から～」

講師③ **大野 智** 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
「SDMを促進するための医療者へのTips: 会話をつなぐ具体的な質問」

講師④ **松村 由美** 京都大学医学部附属病院 医療安全管理部
医療安全管理室・臨床倫理相談室
「SDM促進に向けての病院の取り組み事例」



【お申し込み方法】 締切: 2023年9月17日 (日)

下記お申し込みフォームに必要事項を記載のうえお申し込みください。QRコードからでも可能です。
https://medicalnote.jp/forms/sdm0918_kyoto_u/
 当日のご視聴URLはこのフォームにご入力いただいたメールアドレス宛に送信致します。

主催: 京都大学医学部附属病院 医療安全管理部・医療安全教育コンソーシアム
共催: 日本医療安全学会 後援: 医療の質・安全学会

編集後記

ニュースレターは、本会の組織改編に伴い、2021年9月発行号より、紙面・内容を一新し、年4回、会員の皆様にさまざまな情報を提供してまいりました。この2年間は、covid-19流行の遷延により、各号の発行を分担担当した広報委員会委員は、対面での編集会議もままならない中での活動を余儀なくされました。2023年になり、covid-19は2類相当から5類の感染症へ変更されました。それに合わせた訳ではありませんが、ニュースレターも、年3回の定期発行と不定期の特別号発行と、体制を一部変更し、さらなる紙面の充実を図ってまいります。会員の皆様には、これまで以上に、ニュースレターをご愛読いただき、ご感想、ご要望などを是非ともお寄せいただければ幸いです。(K.M.)

広報委員会 (2023年8月現在)

秋山 美紀

石井 宣大

荒神 裕之

堀田 まゆみ

永尾 るみ子

新田 雅彦

水本 一弘

道丸 摩耶

渡邊 清高 (五十音順)